

信州やまほいく



よくあるご質問

Q1 山の中じゃないと認定されない?

『やまほいく』は自然環境全体のイメージです。周囲を山で囲まれている信州の自然を感じる事が一番大切です。

Q2 屋外活動の時間をどうやって計るの?

普及型は「屋外での体験活動が、一週間で合計5時間以上」、特化型は「合計15時間以上」という基準を設けています。毎日自然を感じることの工夫を保育の内容とその質の高さに反映させてください。

Q3 認定園(団体)のメリットは?

県主催の各種研修会や交流会への参加。自然体験や安全管理の専門指導者の県からの派遣。また、自然保育ポータルサイト「信州やまほいくの郷」に開設されている各園のページでの活動内容アピール。公的支援を受けていない団体への人件費助成。「長野県森林づくり県民税」を活用した活動フィールド等整備のための補助等があります。

自然保育ポータルサイト

「信州やまほいくの郷」で検索!
www.shizenhoiku.jp

- ★「信州やまほいくの郷」各認定団体の検索
- ★認定各団体の保育事例集
- ★イベントのご案内
- ★Facebookで「信州通信」季節の便り



自然保育のお問合せは、長野県県民文化部こども・家庭課まで

〒380-8570 長野県大字南長野字幅下692-2
TEL:026-235-7147(直通) FAX:026-235-7390
Email:katei-shien@pref.nagano.lg.jp

これは、信州やまほいく(信州型自然保育)普及のためのリーフレットです。(2020年2月発行)

信州型自然保育認定制度

信州やまほいく認定制度



豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの“人生の根っこ”を育みます。



市町村別 認定園数 (2019年9月末現在)

北信地域 10市町村63園(公立50園、私立13園)

長野市(33) 須坂市(11) 中野市(2) 千曲市(5) 高山村(1)
山ノ内町(1) 木島平村(1) 信濃町(4) 飯綱町(4) 小川村(1)

東信地域 8市町村36園(公立26園、私立10園)

上田市(2) 小諸市(1) 佐久市(20) 東御市(5) 佐久穂町(4)
南相木村(1) 軽井沢町(2) 青木村(1)

中信地域 9市町村54園(公立40園、私立14園)

松本市(11) 大町市(9) 塩尻市(4) 安曇野市(22) 木曾町(1)
筑北村(2) 池田町(2) 松川村(2) 白馬村(1)

南信地域 10市町村57園(公立41園、私立16園)

飯田市(23) 伊那市(11) 駒ヶ根市(13) 富士見町(1) 原村(1)
箕輪町(4) 中川村(1) 松川町(1) 根羽村(1) 喬木村(1)

『信州やまほいく』とは

「信州の豊かな自然環境と多様な地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」です!

37市町村の 210園を認定

各園の活動の詳細は、
自然保育ポータルサイト
「信州やまほいくの郷」を
ご覧ください。

スタートして5年『信州やまほいく』

長野県の面積は、全国4位の広さがあり、その多くが森林です。もちろん、緑と共に大きな空やおいしい空気、そして水に囲まれています。どこの街からも30分ほどで1000mの高原を訪れる事ができます。そんな素敵な環境を生かして伸び伸びと子どもたちに育ってほしい!という願いが、『信州やまほいく』認定制度を生み、すでに5年が経過しました。2019年9月現在では県内210の団体が認定を受けています。

『信州やまほいく』は山だけではありません

『やまほいく』という愛称をつけていますが、「山」がなければ認定されない制度ではありません。

子どもたちが立ち止まって「あれ、ふしぎだな」という小さな変化に気付く「スキマ」を整えることが、『やまほいく』の環境作りであり、それは山や森に限っていないのです。自然の中では昨日と全く同じという事はありません。例えば、街の軒下から落ちる雨だれの音にも、私たちは自然を感じることができます。そんな小さな変化に気付くことが、生き抜く力の基礎になっていくのです。



長野県から全国へ



『信州やまほいく』は山で走り回っているだけの保育ではありません。森のようちえん、保育園、幼稚園、認定こども園等に通う全ての子どもたちを対象にしています。自然の中で、園から大きな空を眺めて、子どもたちは大人に見守られながら主体的に活動します。改定保育所保育指針、改訂幼稚園教育要領、改訂認定こども園教育・保育要領と同じ方向を向いている『信州やまほいく』の、自然を取り入れた主体的な活動を全国に発信していきます。

自然の中は“たいら”じゃない

たとえば森の中を歩くとき、でこぼこ道や木の根っこを無意識に避けていきます。常にバランスを取りながら子どもたちは活動しているため、体幹が鍛えられます。不定形なものを扱い、一定の形ではない木に登り、坂を走って上り下りし、川を飛び越えます。当たり前のようにこうして活動することで、自然に支持力・懸垂力・跳躍力等を原体験の中で身に付けていくのです。



子ども同士での関わりが大切

大人(保育者)がすぐ結論を出さず、子どもたちの関わりを見守ることも『やまほいく』の大きな要素です。それによって、子どもたちは安心しながらも大人たちの評価を気にせず自分から友達と関わり、多くの経験を積むことで相手の気持ちを考えて行動するようになります。



大人は見守ります

失敗してもそれを受け止めてもらい、嬉しいことは一緒に喜んでくれる大人たちの見守り。その環境の中から自分に自信を持ち、お互いを考えられるようになっていきます。こうした自然保育の学びあいや交流の場が県内各地、さらに全国に広がり、保育者、保護者、地域、各自治体がそれぞれ主体的に関わりながら「子どものしあわせな未来」と一緒に創りあげていくことが、この制度の目指す姿です。



豊かな自然環境と様々な地域資源(文化、伝統、人材等)に育まれ、たくさんの遊びと学びが保障される「しあわせな幼児期」を信州で体感しませんか!

認定区分と認定基準

(保護者と保育者が選べる2つの認定区分と自然保育の質を重視する24基準を設定)

特化型認定基準

質、量ともに自然保育に重点を置いて取り組んでいる活動

【特化型の主な認定基準】

- 一週間で合計15時間以上、屋外を中心とした体験活動が行われている。
- 通算2年以上の自然体験活動の指導経験がある常勤保育者が半数以上いる。
- 安全管理の専門講習を受講した常勤保育者がいる。

普及型認定基準

他のプログラムと一緒に自然保育にも積極的に取り組んでいる活動

【普及型の主な認定基準】

- 一週間で合計5時間以上、屋外を中心とした体験活動が行われている。

2つの区分に共通する主な認定基準

- 屋外での子どもの自然体験活動が、毎月計画的に実施されている。
- 屋外での子どもの自然体験活動に使用できる場所が園庭以外にあり、優先的に使用できる。
- 自然体験活動に関する外部の研修会等に参加した常勤保育者がいる。
- 対外的に自然体験活動に関する事例発表等を行った常勤保育者がいる。
- 屋外での体験活動時には、安全管理に十分配慮した保育者の配置体制をとっている。

基準は、特化型が24項目、普及型が22項目あります。

認定の手続き(年1回)

申請できる団体は

- 認可保育所
- 認可幼稚園
- 認定こども園
- 野外保育団体含む
認可外保育施設等

申請者の法人格は問いません。

運営形態や保育内容の違いに応じて
2つの認定区分から選んで申請を検討

所定の申請書類を作成して知事に提出

申請受理した園の現地調査と審査

特化型又は普及型の認定証を交付

認定を受けた団体は

- 県が主催する研修会や関連事業等に参加するよう努めてください。
- 自然保育のPRにご協力ください。
- 活動の記録と公開に努め保育の「見える化」にご協力ください。
- 活動報告書を毎年度末に提出してください。
- 5年ごとに認定を更新することができます。